

第36号

2017年 3月1日

○発行
650-0004
神戸市中央区中山手通
7丁目25-38
神戸真生塾広報誌編集係
TEL (078) 341-5897
FAX (078) 341-8239
E-mail: kouhou@kbsheinsei-j.org

○振替口座
郵便振替01100-8-18680



社会福祉法人

題字 齊藤 敬好

神戸真生塾

＜児童養護施設 神戸真生塾＞

クリスマス祝会

保育士 原田 満香

本年度もイエス・キリストのご誕生をお祝いする祝会に、沢山のお客様にお越しいただき、共にお祝いできたことを感謝しております。

この日の為に子ども達は沢山の練習、準備を重ねてきました。まず始めに、受付でおやつと一緒にお渡し致しました手作りのオーナメントは、「お客さんが喜んでくれる物を作りたいな」とみんなで相談し、一生懸命考え、色画用紙を使ってサンタクロース、トナカイ、雪だるま、クリスマスツリーのオーナメントを作る事に決めました。みんなそれぞれ役割を分担し、とても素敵な手作りのオーナメントを完成させることが出来ました。



そして、祝会で毎年行われる聖誕劇。役決めでいきなり悩まされることが起こりました。それは、自分の思うような役にならず、嫌がり拗ねてしまったのです。しかし、その姿を見て、その役を自ら引き受け代わってくれた子がいました。その優しさがとても嬉しく、誇らしく思いました。一緒に練習を頑張ろうと、子どもからパワーをもたらしたスタートでした。練習では、なかなか台詞が覚えられなかったり、ふざけすぎて怒られる事もありましたが、何度も何度も練習を重ね、本番では一人一人が練習以上の立派な姿を見せてくれました。その姿に、改めて子ども達の力を強く感じました。

また、今年度は幼児や小学生だけでなく、中学生も何か出し物をしようと思いをかけました。普段、学校の勉強や部活、アルバイト等で忙しい子ども達にとっては、拒否的になってしまっているのではないかと、どれ程の子どもが参加するか心配もありましたが、その心配とは裏腹に、たくさんの子ども達が手をあげてくれました。「なにかしたい！」と沢山の子ども達が声をあげてくれました。何をやるのかも一から子ども達と考え、劇チームとダンスチームに分かれることになりました。劇の台本はすべて子ども達が考え、ダンスも子ども達を中心となって練習しました。部活動やアルバイト、学習塾など、なかなか全員が集まって練習するのは難しく、どうなることかと心配になりましたが、さすがが中学生。やると決めたからには、限られた時間の中で一人一人がとてよく頑張っている。



ました。当日は緊張から、お祝いの会が始まる前から舞台裏でそわそわし始めていました。いざ本番、劇もダンスもみんな活き活きとしており、見ていてとても微笑ましく思いました。今回自主的に沢山の中高生が参加し、練習、リハーサル、本番と職員も一緒に楽しい時間を過ごせたこと、嬉しく思います。この経験が自信へとつながり、神戸真生塾で過ごした思い出の一つになればと願っています。

ラストを締めくくるのは有志の子ども達、職員で歌う「小さな世界」です。たくさんの子ども達が舞台上がり会場全体が一つになれた気がします。

最後になりましたが、教員合唱団の方々、今年もお越し頂き、素敵な歌のプレゼントをありがとうございました。

来年度も皆様と共に笑顔でクリスマスを過ごせますことを楽しみにしています。



クリスマスお食事会

十二月二十四日。「今夜はサンタクロースが来てくれるかな」と、子どもたちの胸のワクワクが一気に高まる夜、クリスマスをお祝いする為にお食事会が開かれました。

いつも生活しているフロアのメンバーとは違い、全てのフロアの子どもたちが混合になるようにメンバー構成された「子ども会の班」で集まり、いつもと違うフロアのリビングで食事をします。この非日常的なシチュエーションが、お祝いムードと子どもたちのワクワクを更に盛り上げます。目の前には、大好



きなフライドチキンやフライドポテト、ピザにスープにジュース、クリスマスリースに見立てて綺麗にトッピングされたサラダなど、手作りのご馳走がずらり。お腹を空かせている子ども達は、「早く『頂きます』しようよ」と、待ちきれない様子でいました。皆でお食事に感謝し、「クリスマスおめでとー」と声を合わせて乾杯をしました。おいしいごはんをほおばり、会話もはずみました。みんなたくさんおかわりし、お腹いっぱい

に美味しいご飯を食べ、とても満足そうでした。ご飯の後、子どもたちはマジックを披露したり漫才を披露したり、皆でできるカードゲームを準備していただき、それぞれの発想で班の皆を楽しませてくれました。マジックや漫才は、このお食事会を少しでも盛り上げたいという思いから、一生懸命考えてくれました。その一生懸命な姿にはとても感動しました。どの班も賑やかで楽しいひと時を持つことができました。また食事中には「イエス様のお誕生日って明日やんな?」「何歳なん?」「神

戸真生塾は何歳やっけ?」など、お誕生日や年齢の話も出てきました。イエス様や神戸真生塾のことを思うひと時となったことも嬉しく思います。

このお食事会を開くにあたり、子どもたちが食事の希望メニューアンケートを作ったり、日時のお知らせのポスターを作ったりもしました。子ども会の係の子ども達を中心となり、みんなで協力しながら作成しました。そのように行事の準備に携わるといふ経験も大切にしていきたいと思えます。そして、また来年も、このような楽しいクリスマス食事会を開催出来ればと思います。

最後になりましたが、たくさんの美味しいケーキやジュースなどをご贈下さった皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(児童指導員 阿部 暁子)



子どものつぶやき

・起床時「お姉ちゃん、ズボンのパーカー洗濯してたの乾いた?」と聞いてきたので、「ズボンのパーカーって何?」と聞き返すと「これ!」と指差したのはジャージのズボンでした。

(9歳・女児)

・年長のDちゃん。「Dちゃん、ルパンの仲間になりたいわー」と。この前に見たルパンがかっこよかったんだね。

(6歳・男児)

・「お姉さん、今日のごはん『人参ヒリヒリ?』惜しい!!」「人参シリシリ」でした。

(17歳・男児)

・夕食の準備を手伝う!とはりきつてくれたYちゃん。「お皿の座布団敷いておくねー!!」と言いながら、ランチヨンマツトを上手に敷いてくれました。

(5歳・女児)

・年も明け子どもと干支の話題に。今年は何にどし?と聞くと、元気よく「メダカどし!」「パン

ダどしやで」と好きな動物や生き物を教えてくれました。

(4歳・女児)

・家事の合間に一人でテレビを観ているNくんの傍らで束の間「のろけ」とうから出世できひんねん」と言いながら笑顔のNくん。「なまけ」との言い間違いでしたが、お姉ちゃんはこの寛ぎのひとときをたっぷり「のろけ」たいです。

(17歳・男児)



沖縄招待旅行

1月7日～8日の1泊2日で、KOBEL三宮・人街創り協議会、ザ・ファースト主催の『第9回KOBEL夢・未来号・沖縄』にご招待して頂き、小学6年生の男児2名・女児3名・職員2名が行ってきました。多くの方のご支援の元、毎年神戸の児童養護施設の小学6年生子ども達を沖縄に連れて行って頂いており、1泊2日ですが、子ども達は多くの初めての経験をし成長して帰ってきております。

1日目は美ら海水族園に行き、ジンベイザメの餌やりを、真上から見せて頂きました。子ども達、ジンベイザメの大きな口と雄大な姿に感銘の声を上げていました。また、今は亡くなってしまいましたが、人口尾ひれのイルカのお話を聞き、た



くさんの人の知恵と協力で可能なことも可能になることを知りました。

2日目は、摩文仁の丘に行きました。戦時中に神戸から沖縄の人々のために県知事として赴任された島田氏のお墓参りをしました。平和の礎には、敵も味方もなくすべての犠牲者の方の名前が書かれていました。私たち大人も深く考えさせられる貴重な時間となりました。子ども達も、学校の授業等で聞いて知っているだけの戦争が、より現実に感じたのではないでしょうか。

子ども達の文集から、楽しかった思い出だけでなく「お墓参りをして、2度と戦争は起こしてはいけないと思った」「『島唄』をバスガイドさんの歌で聞いて」沖縄の戦争の悲しみや、戦争で亡くなった人への思いが込められていることを知り、すごいと思った「島田叔さんが沖縄の人たちの安全のために行ったから、とても勇気があると思いました」等書かれており、この沖縄の旅行で貴重な経験をしたことが伝わってきます。

そして、主催者の方初め多くの方々の協力があり、この旅行が行われており、最初の神戸空港でのお見送りも帰って来た時のお迎えも、とても多く方が来てくださっていました。解散式の話で、「未来を担う皆さんを、たくさんの人が応援しています。」と子ども達に言って頂き、とても感動し感謝しました。子ども達、多くの方々の温かいご支援のもと未来に希望をもって生きていくって欲しいと思えました。私たちも、その力になれるよう寄り添い支援していきたいと改めて思う貴重な間二日間となりました。

この『KOBEL夢 未来号・沖縄』のプロジェクトに関わって下さった多くの皆様に感謝します。
(主任保育士 沖野 世津子)



ホームクッキング

「お部屋でご飯が食べられるようになるといいね」と先輩のS姉さんがそうお話しされていたように思います。あれから随分と歳月が経った今も、月二回のホームクッキングを続けています。

ホームクッキングというのは、各部屋でメニューを子ども達・保育士などの職員と一緒に考え、栄養士がそれについてアドバイスをします。そして買い物、調理、食べて、後片付けをするのです。

今回は「あさがお」という部屋に入るようになりました。メニューは変わり種たこ焼き・パリパリサラダ・すまし汁・お食後のデザート。その日は子ども3人、担当の保育士、私とで近くのスーパーに買い物へ。食材の選び方を保育士や私からアドバイスを受け、子ども達はスーパーの買い物かごの中へ入れていきました。代金を支払い、部屋に戻った後、おやつを食べ、いよいよ夕食の準備です。サラダの野菜・たこ焼きの具材は、小学生の女の子二人が適度な大きさに手でちぎり、包丁を使っ

て切ってくれました。サラダは私がお皿に盛りつけ、たこ焼きは保育士が手を貸して私が見守る中、幼児を含む3人で仲良く作ってくれました。入浴してたり、自室にこもっていたり、アルバイトから帰ってきたり、それぞれ子ども達が自分の席に着くと皆で食膳の感謝をして食べ出しました。

やがて神戸真生塾を巣立ち、この経験が少しでも「食」を身近に感じ、食生活を日々営むことが出来るきっかけとなり、楽しかった思い出のひとつになりますよう願っています。
(栄養士 安西 真由美)



退所する子ども達から

今年度、門東雄太君、濱本明日香ちゃん、横田桃香ちゃん、橋本未来ちゃん、福岡采奈ちゃん、の五名が神戸真生塾を退所していきます。今回、門東雄太君、濱本明日香ちゃん、横田桃香ちゃんに退所にあたっての想いを書いてもらいました

門東 雄太

僕は神戸真生塾で十八年間過ごしました。神戸真生塾での思い出は、毎年、夏に行く琵琶湖キャンプです。琵琶湖キャンプではたくさん思い出が生まれました。高校生になると就職に向けて色々な事業所へ実習に行きました。その中で、ラスクを作っている『まほろば』という事業所へ実習に行きました。『まほろば』で色々な作業をして、『まほろば』で就職したいと思いました。一回目の実習は慣れるまでにとても時間がかかりましたが、作業は素早くすることが出来ました。二回目の実習では、すぐに慣れることができました。三回目の実習は、まほろ



ばのグループホームに泊まりました。グループホームの世話人の方の手伝いができました。実習ではしんどいこともたくさんありましたが、神戸真生塾の部屋のお姉さんが色々とお話してくれたのでとても嬉しかったです。『まほろば』での採用が決まったので、嬉しかったです。

作ってくれてありがとうございます。神戸真生塾での生活はとても充実していて、とても楽しかったです。また遊びに来たいと思います。

濱本 明日香

私は小さい頃から、神戸真生塾で過ごしました。ここでの生活の中で思い出に残っていることは、毎日の何気ない日常生活です。例えば同じ部屋の年下の子ども達や、職員の方との時間が私にとってはずごく幸せで、楽しい日々でした。私の部屋の小さい子は、とても自由で元気にぎやかでした。そのような明るい雰囲気大好きなので、同じ部屋の小さい子ども達と離れて生活していくのはさみしいです。またお部屋の職員の方は、いつも話を聞いてくれて、悩んでいる時には、たくさん相談のつってもらい、いつも私の背中を優しくおしてくれました。職員の方が私の為に言ってくれた言葉を素直に聞けず、言い合

いになってしまったこともあり感謝しています。職員の方が支えてくれたおかげで、私は成長



できたと思います。神戸真生塾で生活してきた時間は、私にとってとても大切な毎日で、充実した日々でした。これからは神戸真生塾で学んだことを活かして、色々なことに挑戦していきたいと思えます。今まで支えてくれた職員のみならず、ありがとうございます。

横田 桃香

私がここまで、神戸真生塾で十三年間過ごした中で楽しかった事は、同期と話して居る時です。無難ですが私にとって十分すぎる日々でした。

人と関わるというのは、自分の語彙力を延ばすという事に繋がるので、とても有意義な時間を過ごせたなと思えます。それ以外の事でも楽しかった

事は沢山あります。皆で出掛けたり、東京デイズニールランドに行ったり、沖繩に招待してもらえたりと、何とも至福な人生を過ごしました。

不幸だと、辛いと嘆く時もありましたが其の思むべき事よりも倍に幸福を感じております。天秤の皿に乗りきれない程の幸せの中で生きる事が出来ました。此の環境の場を作って下さった神戸真生塾のお兄さん・お姉さん、そして富川施設長には感謝しております。

此処を出て行くのは寂しいものですが、立派な社会人になる事が今の私にとって一番の恩返しだと思っております。恥の無い神戸真生塾の子どもとして活躍したいと思えます。十三年間、有難う御座いました。



《乳児院 真生乳児院》

「ごはん」を好きになる

うさぎクラス 保育士 優美子



ミルクの苦手なEちゃん。どうしたら飲んでくれるのだろう。と、何度も職員で話し合いを... 授乳したり、様々な工夫をしながら、少しずつ飲んでくれるようになってきました。しかし、それでも1日に摂取しなければならぬトータル量には足りず、話し合いを重ね、少し早い5ヶ月から離乳食を始めることにしました。



離乳食初日。サロンにて保育

者の膝の上で抱っこをされるEちゃんは、いつもとは違う様子に周りをきよるきよる。用意してもらった重湯を口に運ぶと、美味しかったようで職員からスプーンをとり、スプーンをもぐもぐ。その姿はとても愛らしく、そしてとても嬉しかったです。意欲的に食べているEちゃんの姿をビデオに撮りました。きっと、一生の思い出に残ることでしょう。

ミルクよりも離乳食が大好きなEちゃんは、何でもよく食べてくれます。なので、少しずつ量を増やしながら、2回食、3回食へと順調に進んでいきました。しかし、形態が変わり、刻み食や固形の食べ物が多くなると、口をもぐもぐ動かすのがしんどくなってきたのか、嫌がって口から出したり、「いやいや」と横を向き、意思表示をするようになりました。どうしたらまた食べてくれる

ようになるんだろう。と、職員の間だけではなく栄養士とも何度も相談し、菌茎で潰せる硬さの食材を用意してもらったり、持ちやすい食材を選んでもらったり、と工夫を重ねました。それだけではなく、ヨーグルトはよりプレーンが大好きでよく食べることを伝えたり、苦手な食材や好きな食材だけではなく、こんな調理の仕方だとよく食べたよ等、小さなことでも相談と報告をするようにしました。また、幼児食に向けてパン粥からスティックパンにして欲しいことなど、本児のペースに合わせて離乳食を提供してもらっています。

私たち職員が大切にしていることは、楽しい食事になることです。そのために、サロンにて1対1でEちゃんと向き合って食事をしたり、Eちゃんの目を見ながら「もぐもぐ、ごっくん



するんだよ」と優しく声をかけたり、保育者の真似をしながら楽しい雰囲気の中で食事を進めています。そんなEちゃんも、もうすぐ幼児食になります。ミルクが苦手だったEちゃん。今ではミルクもご飯もたくさん食べられるようになりました。これからもいっぱい食べて、すくすく成長しますように...

真生乳児院では、生後5、6ヶ月で離乳食を開始します。重湯からスタートして、少しずつミルク以外のものの味や食感に慣れていきます。食材の種類が増えるたびに嬉しそうに口を開ける子、初めての味や食感に不思議そうな顔をする子、反応は様々です。食への興味の表し方はこどもによって様々ですが、離乳食は、こどもの身体の発育・発達を促すだけではなく、食を楽しむことを覚える絶好の機会です。彩りや盛り付けの工夫、食感だけではなく実際に手で触れさせることで、より興味を持つてもらいます。また、担当保育士と連携し、こども一人一人の発達に応じた形態で提供し、食事が苦にならないようにすることも重要になってきます。

そして何よりも、目を合わせて声をかけ、温かい雰囲気の中でこども達がにつこり笑顔で食事を出来るのが食事への興味や楽しみに繋がると思い、日々こども達の食と向き合っています。

(栄養士 平野 妙子)

《保育所》
真生きびぎ保育園

一月の園だより

園長 上杉 徹

一月に実施した「絆の日」では、四・五歳児の子どもたちが二・三歳児とバディ（二人一組）となって手をつないで、地域の指定避難場所である山の手小学校まで歩調を合わせながらこけないように歩いてくれました。その後の食事の際には0〜二歳児の子どもたちへの食事介助を手伝ってくれたりとお活躍でした。この時期になると以前にも増して小さいクラスの子どもたちへ優しく関わろうとする姿をよく見ることが出来ます。小さいクラスにおいてもお友だちや自分よりも小さい子のお手伝いをしようとする姿に、それぞれの心の成長を垣間見る場面が増えてきます。保育方針である『感謝する心』もしっかり育ってきている姿に喜びを感じています。4月からの子どもたちの姿をみていると格段にたくましくなってきたことを日々、感じます。

いよいよ卒園・進級の時期を迎えます。それぞれが、小学校へ、次の学年へ期待感を持って飛び出していけるように見守りたいです。

子どもたちの様子

〜一月の園だよりから〜

【めろんぐみ（五歳児）・りんごぐみ（四歳児）】

十二月はクリスマス会に向けての活動を中心に取り組みました。聖誕劇（ページェント）の練習では配役発表から始まり、歌にセリフに動きにとみんなで一生懸命取り組んでいきました。配役発表では、昨年度と同様に一人ひとりにお手紙を配り、役を伝えていきました。全員が手紙を受け取ると初めに保育士から子どもたちへ「大切なお話」をしました。それは、『どの役もとても大切で誰が欠けてもいけない。』ということ、『与えられた役を大好きになって取り組んでほしい。』ということでした。みんな「うんうん」と真剣な表情でまっすぐに保育士を見つめながら聞いていました。そして、いざ手紙を開き自分の役が分かるかどうかからともなく「よしっ、がんばろう！」「○○ちゃん、○○くんにすぐく合っている思う!!」「一緒に役だ！一緒にがんばろう！」という素敵なやり取りが聞えてきてうれしく思いました。歌・セリフ・動きの練習が始まってからも、最初のお話をよく理解してくれているように、みんな一生懸命に取り組んでくれ、成長した姿を見ていただけたことを素直に喜ぶ子どもたちでした。祝会の歌「うさぎ野原のクリスマス」と「トゥモ

ロー」では、本当に歌が好きで上手なクラスで歌詞を書いていると「何々？」と近づいてきて、気が付いたら一緒に全員で口ずさんでいました。「うさぎ野原のクリスマス」では今のクラスで初めて、手話に触れました。手話はあそびではなく、コミュニケーションの手段でそれを必要とする人たちにとつとでも大切なものだと知って真剣に取り組んでいました。その中で、得意になった「ウインク」はとてもかわいらしかったです!! 「トゥモロー」では、少し難しいのですが、という保育士の心配をよそに、すぐに歌えるようになり、本番ではうさぎさんのかわいらしい雰囲気から一転、普段以上にひとまわりもふたまわりもお兄さん、お姉さんに見えた子どもたちに思わず感動しました。

請川 まり子（五歳児担任）
藤津 綾萌（四歳児担任）



【ももぐみ（一歳児）・さくらんぼぐみ（0歳児）】

十二月はクリスマス会に向けて手あそびや歌を頑張りました。そして、クリスマス会の1週間前から予行練習も始まりました。他のクラスの出し物にも興味津々のももぐみ・さくらんぼぐみの子どもたちで、真剣な表情とさくらんぼさんは手を動かして楽しんで観覧していました。

本番では、聖誕劇にも参加し、例年はバギーに乗っての登場でしたが、今年のみはみんなで歩いての登場となりました。しっかりと歩いて舞台まで行くことができました。そして、声を合わせて「メェ〜」と鳴き、「ねんね」のポーズも見事にきめていました。とてもかわいらしい姿をお見せすることができました。

山口 芽久未・青木 梨花
諫山 李子（一歳児・0歳児担任）



ありがとうございました

寄付並びに児童招待ご芳名

敬称略・五十音順

(二〇一六年十月一日～二〇一七年一月三十一日)

寄付金

- 安藤華奈子
- 石井幼稚園
- 稲垣宣子
- 岩村良子
- 上杉徹
- 上西幸之助
- エンタープライズ
- パールジェムズ(有)
- 大江慎一
- 大阪キリスト教短期大学
- 岡本美智子
- 大社貴子
- 小沢医院
- 小野勝江
- 小幡信子
- 数田紀久子
- 勝木光江
- 加渡
- カワタリ電設(株)
- 官永公子
- 神戸教員合唱団
- 神戸教会付属
- いずみ幼稚園
- 神戸市児童養護施設連盟
- 神戸女学院
- 神戸真生塾
- 児童養護施設職員一同
- 真生乳児院 職員一同
- 真生きらきら保育園
- 職員一同

- 子供の家 職員一同
- 神戸聖愛協会
- 神戸ポートワイズ
- メンズクラブ

- 斎藤仁美
- 齋藤稔
- 清水美香
- 篠木
- 霜寄恵美子
- 頌栄短期大学
- 頌栄幼稚園
- 白坂精子
- 菅根信彦
- 鈴木誠也
- 住元義則・淳子
- 高尾華之房
- 高田好枝
- 高森紀子
- 玉川聖学院
- 民谷清
- 東洋英和女学院
- 中・高部母の会

- 富川和彦
- 富川直彦
- 中村悦子
- 中村淳子
- 難波美智子
- 西宮中央協会
- 日本聾話学校
- 野村恰加
- 橋本明
- 秦宏貴

寄付物品

- 濱啓子
- 濱田栄二・理恵
- 林りえ
- 廣澤
- 廣田
- 廣畑康雄
- 福島弘子
- 藤井祥子
- 藤井秀彦
- 本城智子
- 李福美
- 若林孝典
- 綿谷榮子
- 渡邊智明
- K G C F
- ディーン・エステラ
- イ・ボミ
- 上野尚彦
- 植田奈緒美
- 内田三枝
- 梅花女子大学、子ども学科
- 大阪ガス
- 岡本(株)
- 片倉陽子
- (株)アパマンショップ
- (株)公詢社
- (株)USJ
- 河西
- 共進舎労働組合
- 神戸教会
- 神戸昇天教会
- 神戸親和女子大学
- 神戸スイーツポート
- 島田千里
- シスメックス(株)
- 神果神戸青果(株)
- 全国シャンメリー
- 協同組合

児童招待行事等

- タツミコーポレーション
- チュチュアンナ
- 中筋達哉
- 日本鏡餅組合
- 日本教育公務員弘済会
- 日本ベビーフード協議会
- 林りえ
- 平野正敏
- 平野裕美
- 広瀬俊道
- フィールドコスト(株)
- ファイブイントラ
- ロジステック(株)
- 藤間紗也子
- 堀川愛生園
- マークラー神戸(株)
- まほろば
- 三石朝雄
- 三ツ星ベルト(株)
- 吉田紀久代
- 吉田真弓
- 楽天
- K・3
- Three Sheeps
- P&G
- (株)イオンファンタジー
- (株)ROYAL
- 関西学院
- 神戸カップ友の会
- かっぱ座
- 神戸サウナ&スパ
- 神戸女学院
- 神戸六甲ポート
- ライオンズクラブ
- 田中
- 以上

《自立援助ホーム子供の家》 自立援助ホームに配属されて

指導員 中村 真綾

私は、今年度より神戸真生塾に採用となり、「自立援助ホーム子供の家」へ配属され勤務しております。

女子部屋の担当となり、当初は五名の子どもからのスタートになりました。初めは先輩職員の姿を見てしか動くこともできず、予想外の動きがあると動揺してしまう事もありました。また、入所児と年齢が近いという事や経験が浅い事から、あまり指導も上手く行かず、頭を悩ませる毎日を過ごしていました。

しかし、月日を過ぎるにつれ、新たな経験をさせて頂き、先輩職員に助言を頂くなかで私なりの役割とは何か、私なりに少しずつですが分かってきたと感じています。

この一年、子ども達と過ごしていく中で、ホームでの日々の生活や、

日々の何気ない会話一つひとつを大切にしていける事が、時に子どもと心を通わせる機会や結果的には指導へと繋がっていくのだと学びました。また、先の退所後に向けて、ホームが一つの居場所になる様な場にしていきたいと思っています。

生き辛さを感じ、ホームにやってくる子ども達ですが、「自立」に向けて将来に対し前向きに捉え、生活していける様に日常の援助を行なっていくたいと考えております。

各関連機関の方々からのご支援により、自立援助ホームでの子ども達の生活が送れている事、この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。今後もしも色んな方々に感謝を忘れず、自らの技量向上に精進していきたいと思っております。

子育てホットライン(相談専用)

TEL:078-341-6493

年中無休午前9時～午後6時(緊急の場合は夜間も可)

神戸真生塾 子ども家庭支援センター(ロータリー子どもの家)

Homepage <http://www.rotary-kodomonoie.org/>

facebook <http://www.facebook.com/rotary.kodomonoie>



子育てに困ったら
先ず電話相談!

《子ども家庭支援センターロータリー子どもの家》

『みんなの救急法 KOBEL1.17』

神戸真生塾子ども家庭支援センター 久山 啓

阪神・淡路大震災から20年が経過し、追悼行事が半減するなど、風化を危惧する声が増えてくるようになった。2016年1月17日(日)、ちょうど震災から21年目を迎えたその日、第1回『みんなの救急法KOBEL17』が開催されました。『みんなの救急法KOBEL17』は、阪神・淡路大震災の支援のために設立された「ロータリー子どもの家」(現在は神戸真生塾子ども家庭支援センター)やアートで心のケアを行う「色彩楽園」そしてロータリー子どもの家の設立当初からキャンプなどのイベントで共催してきた「神戸ライフセービングクラブ」の3団体によって、運営されています。

「何よりも大切なものは一人ひとりの命であり存在である」ということを胸に刻み、阪神・淡路大震災を経験した神戸から、「みんなが救命士」であることを目指し、誰もが必要なスキルとして身につけておくべき救急法について発信しています。一人ひとりを守るための救急法をより身近なものにするために、心肺蘇生法やAEDの使用方法等の講座だけでなく、地震がれきに埋もれたことを想定して救助や搬送、手当等を参加者が行う、生活に密着し、実際に活用できる救

急法講習会を開催しています。これまでに4回開催し、1歳～70歳まで延131人の参加があり、ボランティア・スタッフも延44人の協力がありません。また、第3回からは中央区赤い羽根地域づくり助成を受け、より気軽に参加できる参加費でより充実した講座を開催しています。次回は、2017年5月28日(日)9時半から『第5回 身近な事故の救急法』それいけ！救急法』を神戸真生塾本館2階ホールにて開催します。参加費200円。お申し込み・お問い合わせは、神戸真生塾子ども家庭支援センターロータリー子どもの家
☎078・341・6492まで。



神戸真生塾苦情処理委員

苦情受付担当者	久山 啓 (子ども家庭支援センターロータリー子どもの家センター長)
	川本 真美 (乳児院 真生乳児院 家庭支援専門員)
	森本 みずき (真生きらきら保育園 主任保育士)
	橋谷 仁志 (神戸市立自立援助ホーム子供の家主任指導員)
苦情解決責任者	富川 和彦 (児童養護施設 神戸真生塾 施設長)
	数田 紀久子 (乳児院 真生乳児院 院長)
	上杉 徹 (保育所 真生きらきら保育園 園長)
	竹原 裕昭 (神戸市立自立援助ホーム子供の施設長)
第三者委員	森光 規之 (当法人 監事)
	中村 悦子 (主任児童委員 中央区山手地区民生委員児童委員)
苦情受付件数	平成28年 10月から1月末まで 1件

編集後記

今年はずいぶん寒いような感じが続いています。桜の木々の芽は少しずつ膨らみ始め、少しずつ春が近づいてきている事を知らせてくれています。今回も皆様のご支援の下、皆様に子どもたちの様子や成長を写真と共に広報誌に載せ、毎回お届けできることを嬉しく思います。また来年度も子ども達の心に寄り添い、共に成長できたらと思います。広報誌第36号の発行するにあたりご協力をいただきました方々、また日頃よりご支援いただいている全ての皆様方に感謝いたします。

(児童指導員 北浦 貴子)